



スピーカー: アルモスタファ・アルハセン
/ Aghirin'man(魂の保護)、ニジェール

1978年にフランス総合原子力企業アレバに採用され、アーリット近郊にあるウラン工場勤務を始める。その後従業員や妻の間で謎の病や若い人の不審死が続いたことを疑問に思い、地元でAghirin'manというNGOを設立する。団体名はトゥアレグ語で「魂の保護」という意味を持ち、ウランの危険性について調査することを目的としている。

みなさん、

私はアルモスタファ・アルハセンです。私はアーリットの市民社会を主導し、ニジェールの環境と健康を守るためにニジェールの権利団体、NGO Aghirin'manを設立しました。それは、すなわち人権です。私たちは元々アレバと呼ばれていた企業、オラノ社、そしてニジェールに拠点を置くソマイル社やコミナク社といった子会社に何度も問いただしました。

コミナク社のウラン鉱山は2021年に閉鎖されました。彼らは、彼らの言葉を借りると、この場所を「再活用」しようとしています。これは我々にとって非常に心配な状況です。これはガボンのムナナですでに起きたことです。そして50年後、彼らはニジェールで同じことをしようとしている。地元住民をほったらかし、人々を放射能で汚染する。

私たちは行政に対し、環境に対する規制を遵守し、ウラン鉱山の再活用は決められた基準に沿って行うべきだと訴えています。ニジェールはウランを50年にわたって採掘し続けてきました。でもここは世界で一番貧しい国です。そして後に残ったのは長期にわたる放射能汚染と想像を絶する疾病です。残念ながら、これが私たちの現状です。そしてこれこそが、「このようなことをやめよ」と、私たちの団体が立ち向かっているものです。

親愛なる友よ、これが私があなた方に共有したかったことです。私たちも共に連帯します。そして、私たちはウランの危険性に打ち勝つためにより大きな声で発信しなければなりません。ウランとうまく付き合う一番の方法は、地下にそっとしておくことです。人類は電力のない生活から逃れられないでしょう。ですが、私たちはウランにつきまとう放射能の危険性をコントロールすることなどできません。

このフォーラムの成功を祈ると同時に、少しでも私たちに想いを馳せていただけたら。
それではまた会う日まで！

おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースポートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースポート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>